



『はじまりにあたってー「学校の心構え」ー』

春爛漫、4月1日。新年度が始まりました。新しくたくさんの職員が着任し、継続の職員とのコンビネーションもよく始業式、入学式を準備して、148名の新入生、2年生144名、3年生146名の生徒たちを迎え入れることができました。

気持ちの良いスタートでした。

新しいことが始まる新年度。「はじまり」に関する言葉を調べてみましたら、たくさんあることに驚きました。

・滑出し・第一歩・出出し・出入・出々し・始り・序開・発端・嚆矢(こうし)・出立・出発・発進・元朝・元旦・元祖・初歩・出陣・発足・初日・開始・開幕・・・などなど。

「はじまり」にあたって、どの言葉を使うかについては事象に対しての「おもしろい」で違ってきます。本校の年度始めの学校状況を言葉にするとしたら、「滑り出し良好」と使いたいです。

さて、新年度の始まりにあたって「心して構えたいこと」とは何だろうか?と考えました。多くの人たちが、これからの世界は未知で、正解のない世界が来ると予測しています。備えとしては、その世界で生きていくのに必要な「知」を身につけなければならないと言われていきます。決まった答えがないからこそ、自分で選んだ答えを正解にしていくしか解決策はないのかもしれない。

現代の子どもたちを待ち受けているのは、これまでのセオリーが当てはまらない、予測不可能な未知の世界です。これまで私たち大人の多くは、正解のある知を求めてきました。これから社会を担っていく子どもたちは、正解のない問いに満ちた世界で何を求めていけばよいのでしょうか。おそらく、これからは新しい価値を生み出す必要が出て来ると思います。新しい価値とはシステムとシステムのあいだ、異文化が摩擦するところに生まれます。つまり、新しい価値を生み出すためには、学校に多様性が必要となってくるのです。

まずは、これまでの常識だけにとらわれない創造力。お互いの価値観を認め合う環境。共生・・・等。これらを念頭に子どもたちを育て、個々の頑張り、この世代の頑張りが、どの



「中庭の花々」

ように取り組めば報われるのか。不透明な将来が待っているからこそ、この課題に向かい、プラスの考えを持って子どもたちと共に過ごしていきたい、そこで生きていく「知」を身につけてほしいと考えます。

申し遅れましたが、校長の小林秀夫です。以上を私の「心して構えること」。「学校の心構え」として努めて参ります。今年度もよろしくお願ひいたします。



「生徒たちを待つ校舎」

始業式 — 進級おめでとうございます —



雨まじりの4月5日、新2・3年生が緊張した面持ちで登校してきました。

昇降口前は早くクラス発表の名簿を確認したい生徒でいっぱいになりそうでしたが、配付開始。

「まだ、見せるなよ」「言わないで」「密になるからまだもらわない・・・」とにかく、早く知りたい思いが前面に出ていました。

歓声、笑い、ジャンプ、拍手、それぞれの思いを表現していました。

その風景には、見た目だけでなく、一つ成長した、目に見えない落ち着いた雰囲気が漂っているように思いました。

始業式での態度はとても立派で、新2年生、3年生らしく個々の意気込みが感じられました。



入学式 — おめでとうございます 善行中へようこそ —

4月5日。寒さ、小雨まじりと残念な天候となりましたが、爽やかな表情で校門へ新入生、保護者の方々が続々と来校されました。そして148名の生徒が入学しました。

クラス名簿を生徒会本部役員の生徒から受け取ると、早速、本人とお友達のクラスを確認。ご家庭の方と共に受付に向かわれていました。(2・3年生は準備、片付けと見事でした)

式での担任からの呼名では、立派な姿勢、大きな「はい」という返事に感激しました。

代表生徒の言葉「多くの経験を積み、日々成長していきたいです。」に期待が膨らみます。



5月の主な予定

5/7 (金) 授業参観・PTA 総会・部活動保護者説明会

5/27 (木) 全国学習学力状況調査(3年)

5/20 (木) ~22 (土) 3年修学旅行

※ 退任・離任 新年度担当職員についてはホームページには掲載いたしませんので、ご了承ください。